

# 読経ボランティア行う

## 宮城県の遺体安置所で実施

アセンターに問い合わせていたきたい」と話している。

東北教区災害ボランティアセンターには4月15日現在、僧侶や門信徒、一般市民ら延べ500人のボランティア

これまで支援物資を届けたのは宮城県石巻市の称法寺、仙台市宮城野区の専能寺をはじめ、町民の約4割にあたる7340人が避難している宮城県南三陸町の各避難所、石巻市の役場や学校、入釜谷地区などの避難所、多賀城市役場、巨理町の役場や学校などの避難所、山元町避難所など。

アが登録し、復興支援活動を行っている。

また、震災直後から

を模索している。

3月23日からは、「心の支援」として僧侶が遺体安置所を訪ね、「読経ボランティア」に取り組んでいる。

同センターは「多くのボランティアが全国各地から来てくださり、日々支援の輪が広がっている。必要な物資、活動に必要なボランティアの人数は日々増えている。必要に応じて、南相馬市・鹿島中学校、専能寺、仙台市・岡田小学校避難所

管理する警察に「読経をさせていただけませんか」と申し出、許可

が下りた時にご本尊を安置し、読経を行っている。これまで、宮城県の名取市、女川町、福島県の南相馬市、相馬市などの遺体安置所で読経を行った。

ボランティアの僧侶は「断られることもあったが、読経の後に、ご遺族や身内の遺体を確認するために訪れていた方、警察の方から、

読経の声を聞くことができて落ち着きました』お供える花もないですが、僧侶の方

『読経の声を聞くことができて落ち着きました』お供える花もないですが、僧侶の方